

令和3年 8月 3日
国立大学法人大阪大学

遺伝子組換えマウスの管理区域外での捕獲について

1. 概要・経緯

4月6日に医学系研究科の研究者が医学部附属動物実験施設（施設改修工事中のため医学系研究科研究棟地下のピット階に設けたプレハブ施設。）（以下「飼育施設」という。）の入り口付近でマウスを1匹捕獲しました。調査の結果、捕獲されたマウスは飼育施設で飼養されていた遺伝子組換えマウスであることが確認されたため、学外有識者を交えた調査委員会を設置し、調査を行うとともに再発防止策の検討を行いました。

2. 捕獲場所

飼育施設外

捕獲したマウスの情報 黒の毛色、体重15g、オス、C57BL/6 実験マウス

遺伝子組換え体（T-cadherin exon 5（Adiponectinという蛋白質との結合に必要な遺伝子）を欠損させたもの）であり、拡散防止措置区分はP1A（遺伝子組換え動物を扱う際の拡散防止措置として、必要な措置が最も簡易なもの）で取扱い可能なもの。

3. 環境への影響

飼育施設で飼育されているマウスは人体に影響を及ぼすものではありません。また、飼育施設が設置されている場所は、地下階にあることに加え、構造上、マウスが自力で建物外に逃亡することはありません。また、約2か月間のモニタリングを行ったところ、他に捕獲されたマウスはいなかったことから、他に逃亡したマウスはいないと考えます。

以上のことから、環境中への漏洩はありません。

4. 発生要因

関係者へのヒアリング等を行った結果、本件の発生は複数の要因が想定され、それぞれの蓋然性は高いと考えられますが、発生要因の確定は難しいとの結論に至りました。

想定される要因は以下のとおりです。

- ・マウス移し替え時の落下等、施設利用者が気づかないうちの逃亡
- ・逃亡したマウスが飼育施設内の死角に潜み、施設利用者または施設職員の出入りの際に段階的に扉を超えて、飼育施設外に逃亡

5. 再発防止策

今後、作業時を含めた動物の管理全般についてより適切になるよう、以下について医学部

他施設を含め全学において飼養保管施設ごとに定めるマニュアルに記載するとともに、部長は実験従事者に対して、本件をはじめとする関係事案の共有を図るなど内容を充実させ、教育講習を徹底します。

- ① 飼育室から動物を運搬する際には、必ず落下時にも蓋が開かない堅牢な容器を使用するとともに、容器への移し替えの際には、動物が逃げ出すことのないよう細心の注意を払うこと。
- ② 実験等（安楽死処置も含む）の開始前及び終了後において、必ず使用予定の動物数と実際に使用した動物の数が一致していることの確認を徹底すること。
- ③ 実験室等において飼育している動物の習性に応じた適切な逃亡防止措置（前室、ネズミ返し、ネズミ捕り等）が講じられていることを再度点検し、必要に応じて追加の措置を講じること。

また、当該飼育施設においては、すでに監視カメラの設置に加え、飼育室の前室にネズミ返しを設置する等の措置を講じております。